



品質・収量確保のため、こまめな水管理を徹底しましょう！

1. 生育概況

草丈はまっしぐらで平年値を上回っていますが、茎数や株数/m²はつがるロマン、まっしぐらともに平年を下回っています。

7月下旬から水稻は最も水を必要とする時期を迎えます。収量を確保するためにもきめ細やかな水管理を徹底してください。

当農協管内の水稻生育観測圃の調査結果（7月7日）

調査項目		つがるロマン	まっしぐら
草丈 (cm)	本年	49.7	63.2
	平年	52.0	53.0
茎数 (本)	本年	19.6	19.0
	平年	25.4	23.3
株数/m ² (株)	本年	15.2	16.3
	平年	21.0	19.6

※調査品種 つがるロマン（岩木）、まっしぐら（西目屋）
※平年 JA つがる弘前管内の平年値

2. 水管理（穂ばらみ期以降の水管理）

生育ステージ	水深	備考
穂ばらみ期 (7月19日頃～)	寒い日：15cm 暖かい日：4cm	最も低温に弱い時期です。天候に注意してこまめに水管理を行いましょう。
出穂・開花期 (7月29日頃～)	寒い日：10cm 暖かい日：5cm	最も水が必要な時期です。開花・受精がスムーズにできるよう、水を切らさないようにしましょう。
登熟期 (8月8日頃～)	寒い日：10cm 暖かい日：3cm	湿田では根腐れが発生しやすいので間断かんがいを行い根の機能を低下させないようにしましょう。

※寒い日の目安は平均気温20℃、最低気温17℃を下回る時です。

胴割粒対策

出穂後10日間の最高気温が30℃を超える場合、胴割粒の発生リスクが高まります。稲体の温度を下げることで発生を抑えることができます。高温が予想される場合は積極的にかけ流しを行いましょう。

※気象庁の3か月予報では気温が高く推移すると予想されています。こまめな水管理を徹底しましょう。

3. カメムシ対策（草刈り禁止期間の徹底）

向こう一か月は気温が平年並みか高いという予想から、カメムシの発生量は平年よりやや多くなると予想されています。これからの草刈りはカメムシを圃場に呼び込む危険な行為です。9月上旬まで草刈りは行わないでください。

4. 病虫害防除

出荷区分で使用できる薬剤が異なります。使用前に出荷区分を確認しましょう。

散布時期	散布薬剤	対象病虫害	JA米	青天の霹靂	西目屋RC
出穂直前 (7月26日頃～) 岩木 (7月31日頃～) 西目屋	ビーム粉剤DL 又は ビームゾル（航空防除）	いもち病	○ ○	○ ○	× ×
	ビームスタークル粉剤5DL	いもち病、カメムシ	○	×	×
穂揃い期 (8月1日頃～) 岩木 (8月7日頃～) 西目屋	スタークル1キロ粒剤 又は キラップ粉剤DL	カメムシ	○ ○	○ ×	× ×
穂揃い7～14日後 (8月11日頃～) 岩木 (8月17日頃～) 西目屋	スタークル粉剤DL 又は スタークル液剤（航空防除）	カメムシ	○ ○	○ ○	○ ○

【重要】航空防除を申し込みされた皆様へ

航空防除を下記の時期に実施いたします。目印の旗を圃場に設置していない方は早めの設置をお願いします。

岩木地域(予定) 一回目 7月25、26日（いもち病対策） 二回目 8月11、12日（カメムシ対策）

西目屋地域(予定) 8月18日（カメムシ対策） ※箱施用剤を使用しているため、一回のみの防除となります。

※天候などの理由から日程が多少ずれることもあります。ご了承ください。